16.4.18
村川淳一

初めてのヴァイオリンリサイタル

昨日、**東京文化会館　小ホール**で開催された**植村理葉**（うえむらりよう）**さん**の**ヴァイオリンリサイタル**（独奏会）に、初めて伺いました。彼女は、**八木さん**（西高同期生、摂南大学学長）のお姉さんの娘さんだそうです。

風雨が激しく、私の壊れかけていた折りたたみ傘は、完全に壊れてしまいました。写真右は、**JR上野駅**前の様子です。ガイジンたちはタフで、傘もなく、T シャツ 1 枚で悠々と歩いている人も・・・。

14:00 開演で、13:30 受付開始とのことで、時刻になったので、列に並びました。「ヤヤッ！」**八木さん**が前に並んでいます。楽屋入口から入ったものと思っていましたので、意外でした。

列が進んでいくうちに、皆さん、入場券を持っておられる方ばかりだと分かり、誰も並んでいない当日券窓口で 4,500 円のチケットを求めました。写真下はプログラムの表紙です。

八木さんの話によると、お姉さんも旦那さんも音楽大学の先生で、**理葉さん**は 3 歳ころから音楽に目覚めたそうです。この道に入られて 20 年だそうですが、いつから数えて 20 年なのかな？

「小ホール」といいながら、600 名も収容できます。それも、ほとんど空席がありません。「理葉さんって、メジャーなんだ！」と、失礼ながら驚きました。目の不自由な方が 2 名、**金川さん**と私が坐った席の前を通られました。私の後ろには**八木さん**が坐りました。

植村　理葉

ヴァイオリンリサイタル 2016

フォーレからツィンマーマンへ

ピアノ：岡田　博美

2016 年 4 月 17 日（日）14 時開演

東京文化会館　小ホール

お二人の経歴（次頁）を拝見して、感心しました。**理葉さん**は**小学生ヴァイオリンの部**で優勝され、**桐朋学園女子高等学校音楽科**を御卒業後、文化庁の派遣研修員として**ケルン音楽大学**に入学、同大学を最優秀成績で卒業され、**ローム音楽財団**の助成を受けて、**ローザンヌ音楽院**に入られ、同音楽院を首席で卒業されています。

その他、数々の賞を受けられ、現在は**ベルリン**に住まわれ、ソリストとして御活躍中のようです。

岡田さんは、**理葉さん**と同じ**桐朋学園**の大学在学中に、**第 48 回日本音楽コンクール**で優勝され、同大学を首席で卒業されました。

その後、**第 28 回マリア・カナルス国際コンクール**、**第 2 回日本国際音楽コンクールピアノ部門**、**第 2 回プレトリア国際コンクール**で、いずれも優勝されており、その後も優勝を重ねられています。現在は、**桐朋学園大学院**の教授だそうです。

お二人の経歴をプログラムからコピーさせていただきました。

【植村理葉】Riyo Uemura ／ヴァイオリン

桐朋学園女子高校音楽科を卒業し文化庁芸術家在外研修員（３年派遣）としてケルン音楽大学を最優秀成績で卒業。ローム音楽財団より助成を受けローザンヌ音楽院を首席で卒業。全日本学生音楽コンクール・ヴァイオリン部門小学生の部全国１位。日本音楽コンクール第２位、併せてナカミチ賞受賞。M.アバド国際音楽コンクール優勝。L.モーツァルト国際音楽コンクール最高位受賞、併せてモーツァルト特別賞受賞。第１５回新日鉄音楽賞フレッシュ・アーティスト賞受賞。現在はベルリンに住み、欧州各国でソリストとして活躍。これまでに、千本芳恵、鈴木共子、和波孝禎、小林健次、I.オジム、P.アモイヤル、M. シェルツァー氏に師事。

ヨーロッパでソリストとして招かれオーケストラと協演したコンサートは９０回に及ぶ。これまで州立ハレ・フィルハーモニー管弦楽団、州立アウクスブルク・フィルハーモニー管弦楽団、州立チューリンゲン・フィルハーモニー管弦楽団、シュレースヴィッヒ・ホルシュタイン交響楽団、ミッテルドイチェ・カンマー・フィルハーモニー、ボン・クラシッシェ・フィルハーモニー、ケルン室内オーケストラ、プラハ・シンフォニエッタ、サンクトペテルブルク・カメラータ、ローザンヌ室内管弦楽団他と協演。国内では東京交響楽団、東京フィルハーモニー、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー、広島交響楽団、ジャパン・シンフォニア、我孫子市民フィルハーモニー管弦楽団などと協演。

「きわめて優れた様式感」　「一貫して緊張を保ち聴き手に息をつく暇をあたえない」「音が美しく、表現が明澄で、清潔な音楽をつくるバイオリニスト」「ボンの人達は彼女をウィーン古典派の協奏曲のソリストとして既に認知している。」「完璧な演奏で聴衆を魅了し、聴衆は熱狂的な歓声をあげた。」と新聞批評で高評を得る。

毎日ゾリステン（毎日新聞社主催）に出演の他、多くのリサイタルを行い、バッハの無伴奏ソナタとパルティータの全曲を一夜で演奏、ベートーヴェンのソナタ全曲演奏をたびたび行う。朝日カルチャーセンターでモーツアルトのソナタ全曲のレクチャーを行う。ドイツやサンクトペテルブルクの音楽祭に招かれ、モーツァルトのコンチェルトを協演。草津夏期国際音楽祭にて、ウェルナー・ヒンクらとシューベルトの弦楽五重奏曲を演奏。

シューマンの協奏曲の CD をドイツ・ソニーから、「ラヴェル・ヴァイオリンソナタ・フランス・ヴァイオリン作品集」CD をカメラータ・トウキョウからリリースし、いずれも新聞・音楽雑誌上で高評価を得る。www.riyo-uemura.com

【岡田博美】Hiromi Okada ／ピアノ

富山県出身。安藤仁一郎、森安芳樹、マリア・クルチオの各氏に師事。桐朋学園大学在学中、第 48 回日本音楽コンクールで第 1 位優勝。桐朋学園大学を首席で卒業後、1982 年第 28 回マリア・カナルス国際コンクールで第 1 位（スペイン音楽解釈賞を同時に受賞）、1983 年第 2 回日本国際音楽コンクールピアノ部門第 1 位、1984 年第 2 回プレトリア国際コンクールにて第 1 位 （リサイタル賞を併せて受賞）と、次々に優勝を果たし注目を集める。1984 年よりロンドン在住。翌年、ロンドンでデビューリサイタルを行い、デイリーテレグラフ紙や、タイムズ紙などに絶賛された。以後、ロンドンを拠点に欧州各地で活動を続けながら、日本でも毎年意欲的なプログラムによるリサイタルで好評を博している。1993 年のショパン・エチュード全曲演奏に対し第 20 回日本ショパン協会賞を受賞。

日本フィルハーモニー、NHK 交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団他、ヨーロッパではフィルハーモニア管弦楽団、BBC 交響楽団、ロイヤル・フィルハーモニック管弦楽団等、様々なオーケストラと協演している。古典から現代曲までレパートリーは幅広い。室内楽にも積極的に取り組んでおり、ウィーンフィルのメンバーやヴァイオリンの天満敦子、川畠成道らとの共演は、毎回多くの聴衆を魅了している。各地の音楽祭へも招聘され、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ・フェスティヴァル（フランス）、シュタインバッハ音楽祭（オーストリア）、草津音楽祭などに出演。録音も多く、カメラータ・トウキョウからは継続的にソロ、室内楽の分野で CD が発売され、いずれも高く評価されている。昨年より、桐朋学園大学院教授に就任。　http://hiromi-okada.com/

プログラムは、以下のとおりです。素養のある方なら、難しい曲であることが、お分かりになると思います。順に、1875 年、1943 年、1951 年、1917 年の作曲だそうです。

プログラム

G.フォーレ：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ　第１番　イ長調 作品 13
G. Fauré: 1er Sonate pour violon et piano Op.13

F.プーランク：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ “ガルシア・ロルカの想い出に”
F. Poulenc: Sonate pour violon et piano

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

B. A.ツィンマーマン：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ
B.A.Zimmermann: Sonate für Violine solo

G.フォーレ：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ　第２番　ホ短調 作品 108
G. Fauré: 2me Sonate pour violon et piano Op.108

アンコールの拍手のあと、短い 3 曲の演奏がありました。

2 曲目が終わったあとに 20 分間の休憩があり、**はなぶさママさん**とコーヒーを飲みながら、久し振りにお話をしました。**近藤さん**は、同じ列の離れた席で、美人の女性と話をしています（はなぶさママさんの方が若いし綺麗です）。「彼女」かなと思い、邪魔をしてはいけないので近付きませんでした。全てが終わって、サインをいただくために並んでいるときに、吉川さんに聞きましたら、「お前、知らないのか！同期で南高出身の歌手だよ！」と言われました。そういえば、確かにオーラがありました。

演奏が終わったあと、ロビーで誰かが来ないかなと待ちました。そのうち、**阪本さん**とは、初対面のような気がしますが、彼は私のことをよく掌握してくれていました。また、民間会社に在りながら、イラクのクウェート侵攻を自らの情報から予測されるなど素晴らしい功績を上げられたことを知りました。

初めてのヴァイオリンリサイタル（それも超メジャー）に接し、このような機会に恵まれたことに感謝する次第です。

（終わり）